



▲「世界トップの情報を集めて日本の電気工学を進めた」と、博士の業績を伝える松瀬教授の講演

電気学会（東京都）で、
「100年前に高度情報社会が見えていた天才」と紹介されている志田博士



多久市出身の先覚者「志田林三郎博士」（1855－1892年）の偉業を称え、親しみ、ふるさと多久の誇りにしてもらいたいと、顕彰会が発足し、多久シティホテル松屋で8月19日、設立総会がありました。博士の遺徳や業績を広く社会に発信し、博士にちなんだ科学・文化賞制度の設置やイベントなどを行うことを決めました。

顕彰会の設立は、『でんきの礎』顕彰受賞がきっかけとなったもので、総会には教育関係者や県内の歴史研究家など約60人が参加。江口吉則教育委員長が「博士は幼少時に母親の手伝いでまんじゅうを売っていたことにちなみ、“博士まんじゅう”の商標を取得しました」という報告で始まりました。

博士の遺徳と業績を顕彰し、科学・文化の振興発展と次世代を担う若人の育成を目的にすることや事業計画などを確認し、会長に就任した横尾俊彦市長は「共に学び、一般には知られていない郷土の偉人にスポットを当て、発信したい」と挨拶。電気学会前会長で多久市出身の松瀬貢規明治大学教授の『志田林三郎先生と電気工学』と題した記念講演もあり、「今の時代に使っている通信、ネットワーク、電力などは、全て博士が明治の終わりに予言したことで、技術も科学もその通り動いている。色んな技術が進歩して総合的によくなったとみられる」など、博士の生涯とその功績によってわが国の電気工学の発展や、これからの低炭素社会の実現に向けての展望を話しました。

顕彰会では今年から、博士の誕生日だった12月25日に市内の子どもたちを対象にロボットコンテストの開催を決定。電気学会から講師を招き子どもたちに電気や科学技術を楽しく学べるイベントなどを検討しています。また、広く会員も募集中です。

■問い合わせ

志田林三郎顕彰会事務局（東原庁舎内） ☎75-5112

東多久町で誕生した志田博士は、幼少の頃から神童と呼ばれ、工部大学校電信科（現：東京大学工学部電気系3学科の前身）の1期生で、1879年に主席で卒業。その後、スコットランドのグラスゴー大学に留学し、物理学、数学などを学び、帝国大学教授や逓信省の初代工務局長を歴任。我が国第1号の工学博士、電気学会の創始者で、明治時代に活躍した日本の電気工学の祖といえる人物です。1888年の電気学会第1回総会演説で、無線、録音、テレビ、送電など、電気工学が成しえる未来技術を予測。この120年前に唱えた未来技術が次々と実現し、その先見性が高く評価され、博士とその事績を展示・紹介している多久市先覚者資料館が平成20年、創立120年を迎えた電気学会から『でんきの礎』第1回顕彰を受賞しています。

市長コラム

温 | 故 | 創 | 新

Message for citizen

先覚者・志田林三郎博士

「天才とは1%のひらめきと99%の努力」はトマス・エジソンの有名な名言。世界的発明王であるエジソンが唯一尊敬した人物がグラスゴー大学のケルビン卿（ウイリアム・トムソン）といわれている。そのケルビン卿が愛弟子として教え「私が出会った数ある教え子の中で最高の学生」と高く評価した日本人がいた。明治時代初期に英国に渡航した多久出身の志田林三郎である。

グラスゴー大学は当時の世界最高学府で、かのジェームス・ワットもアダム・スミスも縁のある大学である。林三郎はここで最優秀学生に与えられるケレランド金賞を授与されている。さらに大学での学究に加え、英国郵便事業実情を調査して帰国し、工部省電信局の実務に尽力し、日本の郵便・通信事業の基礎を築く仕事に奔走した。

27歳で工部大学校電気工学科の初代日本人教授に就任。明治19年の帝国大学（現在の東京大学）発足では教授となり、21年に我が国第1号の工学博士となり、東京電信学校校長も務めた。

電気学会創設にも尽力し、設立記念の第1回総会講演で、テレビなど現代に至る科学技術の進展と情報化社会を予言した。まさに俊才ぶりを発揮して活躍した。だが病のため36歳8か月で逝去。存命ならさらに日本と世界に貢献したはず。

その活躍の第一歩を支えたのは若い才能を見出し支えた多久の人々だった。人づくりの気風が多久にあり、人物輩出につながったのである。

このほど志田博士を顕彰する会が発足した。郷土の先覚者をさらに学び、発信し、人づくりの気風も高めたい。ご協力をお願いします。（俊彦）